

第3回総合歯科協議会総会・学術大会

総合歯科医療に関する学術研究セミナー2010

‘歯科総合診療に求められるcore competenceを再考する’

日時 平成22年11月5日（金） 14:00－17:00
6日（土） 9:00－17:00
（懇親会 18:00－）
7日（日） 9:00－12:00
場所 九州大学歯学部（講義室、教育交流プラザ）

特別講演1

「抗血栓薬、勝手に止めると悔い残す！
—周術期の抗血栓薬管理はどうあるべきか—」

矢坂 正弘先生

独立行政法人 国立病院機構 九州医療センター

特別講演2

「歯周治療を基軸とした総合治療の実践」

水上 哲也先生

医療法人水上歯科クリニック

参加費：歯科医師 ¥5,000（臨床研修医、学生；無料）
コデンタルスタッフ ¥1,000

第3回総合歯科協議会総会・学術大会

— 総合歯科医療に関する学術研究セミナー2010 —

歯科総合診療に求められるcore competenceを再考する

会 期:平成22年11月5日(金)・6日(土)・7日(日)

会 場:九州大学歯学部

主 催:九州大学病院口腔総合診療科

大 会 長:樋口 勝規

準備委員長:寶田 貫

ご 挨 拶

第3回総合歯科協議会総会・学術大会（—総合歯科医療に関する学術研究セミナー2010—）を開催するにあたり、ご挨拶を申し上げます。本協議会は小川代表幹事の熱き思いから何度かの話し合いを経て、2年前の平成20年8月に第一回総会が広島大学で開催されました。昨年の第二回総会は日本大学松戸で開催されましたが、過去2年は共に8月という夏の暑い時期でした。福岡の8月は、地球温暖化のためか数年にわたり異常な暑さを経験しています。そこで、今回の総会をお引き受けするにあたり、秋容爽やかな11月上旬に開催させていただくこととしました。

今回の学術大会は「歯科総合診療に求められるcore competenceを再考する」をテーマに、総合歯科診療の意義・具備すべき能力などをあらためて検討していただくこととし、特別講演と一般講演（口演、ポスター）の2つから構成しました。特別講演は二題で、一つは九州医療センター脳血管神経内科科長の矢坂先生から「抗血栓、勝手に止めると悔い残す！」と題して講演いただき、もう一つは総合歯科のprofessional validationを念頭に「歯周病を基軸とした総合治療の実践」について、開業されている水上先生にお願いしました。水上先生は歯周病やインプラントに関する造詣が深く、多くの著書だけでなく世界の学会でシンポジストを多数経験されてこられた先生です。一般講演は、総合歯科診療に関連することであれば、全てお引き受けしました。

なお、本会の将来を背負っていただく若き後継者の先生方（臨床研修歯科医～卒後3年目を目安）を対象としたポスターセッションを設けました。そのなかで、会員の感銘を受けた演題には賞を設けようと企画しています。会員各位におかれましては、若い先生方の参加や発表のご指導を宜しく申し上げますとともに、本協議会が有意義な会になることを祈念します。

11月の博多は、協議会の翌週には大相撲福岡場所が開催され、師走に向けて徐々に活気付いていき、食べ物は河豚の季節到来となります。本会の懇親会では、河豚はありませんが、その後は博多の夜をどうぞ堪能下さい。

第3回総合歯科協議会総会・学術大会会長
九州大学病院 口腔総合診療科
教授 樋口勝規

平成22年11月吉日

第3回総合歯科協議会総会・学術大会

— 総合歯科医療に関する学術研究セミナー2010 — の開催にあたって

第3回総合歯科協議会総会・学術大会準備委員長
九州大学病院口腔総合診療科
診療准教授 寶田 貫

このたび 第3回総合歯科協議会総会・学術大会を「歯科総合診療に求められる core competenceを再考する」をテーマとして、平成22年11月5日(金)、6日(土)、7日(日)の3日間にわたり九州大学歯学部(福岡市)にて開催させていただきます。実り多い学会とするために学会員をはじめ関係各位の皆様のご協力とご支援を賜りますよう宜しくお願いいたします。

ご 案 内

● 大会参加者の皆様へ

1. 当日受付(事前登録は行いません)

受付は、午前9時より歯学部学生実習棟1階にて行います。

2. 参加登録

大会受付にて参加費5,000円(歯科医師)、1,000円(コ・デンタルスタッフ)を納入し、会場内ではかならず参加章を着用してください。ただし、臨床研修歯科医師、学生は無料です。

3. 懇親会費

大会受付にて懇親会費1,000円を納入してください。

4. 6日(土)の昼食には弁当を用意します。受付にて引き換えチケットを購入してください(1,000円、20人分用意します)。会場周辺の飲食店マップも準備します。

● 大会会場(次頁の会場案内を参考にしてください)

1. 歯学部学生実習棟と教育研究交流プラザの2箇所が会場となります

1) 常任幹事会、幹事会: 歯学部学生実習棟3F 学部会議室

2) 講演会場: 歯学部学生実習棟1F 講義室A・B

3) ポスター会場: 教育研究交流プラザ2F

4) 商業展示会場、ドリンクコーナー: 教育研究交流プラザ2F

5) 懇親会会場: 医学部基礎研究A棟 学生食堂

6) クローク: 歯学部学生実習棟1F受付横

● 大会の連絡先

九州大学病院口腔総合診療科内

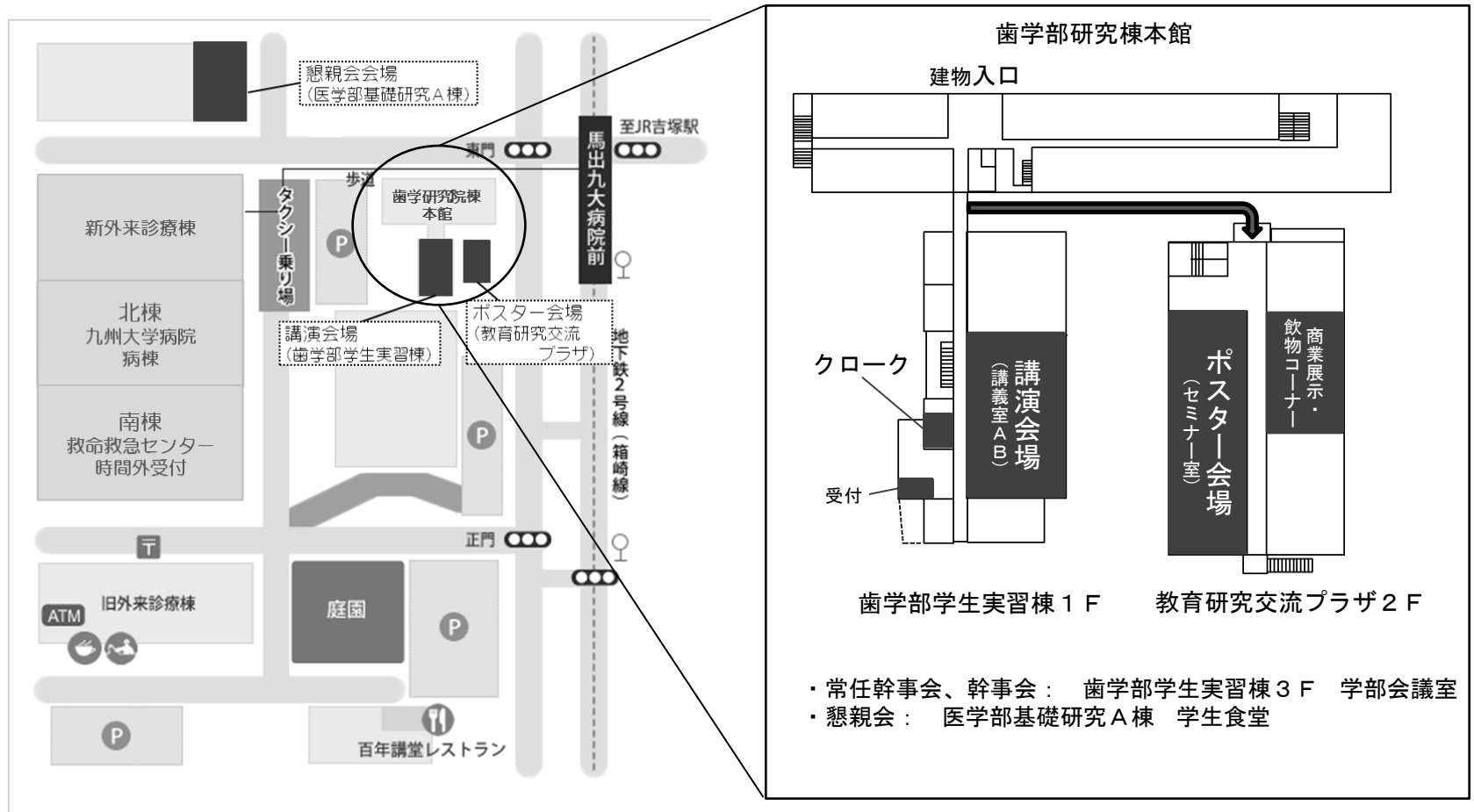
第3回総合歯科協議会総会・学術大会事務局 (担当: 寶田・津田)

福岡市東区馬出3-1-1(〒812-8582)

TEL: 092-642-6488 、FAX: 092-642-6520

E-mail: seminar2010@dent.kyushu-u.ac.jp

会場図



交通のご案内

- JR吉塚駅下車徒歩10分
- 地下鉄箱崎線馬出九大病院前下車
 - 福岡空港から約13分
 - 博多駅から約10分
 - 天神から約6分
 } 中州川端乗換
- 西鉄バス「県庁九大病院前」または「九大病院」下車
 - 博多駅から約15分
 - 天神から約15分

第3回総合歯科協議会総会・学術大会

— 総合歯科医療に関する学術研究セミナー2010 —

概 要

日 程:平成22年11月5日(金)、6日(土)、7日(日)
主 催:九州大学病院口腔総合診療科
大会長:九州大学病院口腔総合診療科教授 樋口勝規
会 場:九州大学歯学部

【実施概要】

平成22年11月5日(金)

14:00～14:30 常任幹事会

15:00～17:00 幹事会

平成22年11月6日(土)

9:00 受付開始

9:30 開会

9:40～12:15 一般口演

12:30～13:30 昼休み

13:30～14:30 総会

14:30～15:30 特別講演 1

「抗血栓薬、勝手に止めると悔い残す！

一周術期の抗血栓薬管理はどうあるべきか？」

講師 矢坂正弘先生

〔 独立行政法人 国立病院機構 九州医療センター
脳血管神経内科・科長 〕

15:50～17:20 ポスター発表（研修歯科医・他）

18:00～19:30 懇親会

平成22年11月7日(日)

8:30 受付開始

9:00～10:00 特別講演 2

「歯周治療を基軸とした総合治療の実践」

講師 水上哲也先生

〔 医療法人水上歯科クリニック・院長
九州大学歯学臨床教授
歯水会会員 〕

10:20～11:35 ポスター発表（一般）

11:50 閉会

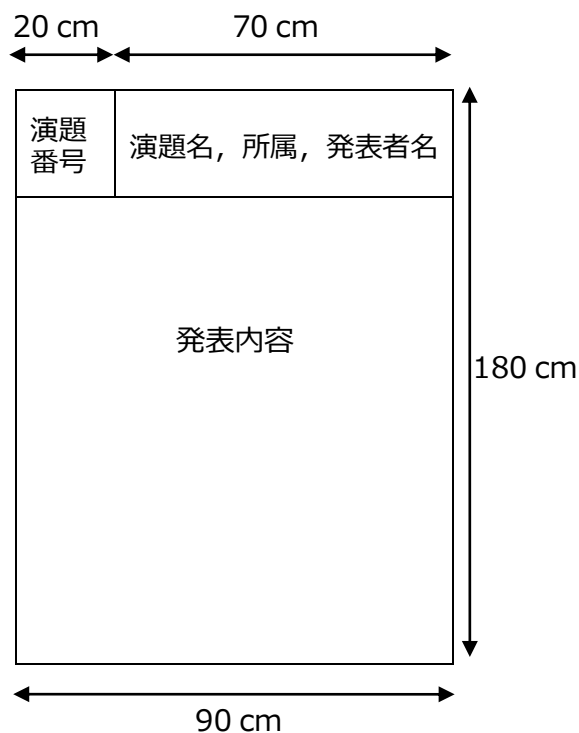
発表者の方へ

【一般口演の発表形式】

1. 講演 7 分、質疑応答 3 分とし、プレゼンテーションに使用する機器は PC プロジェクター 1 基のみとさせていただきます(スライドは使用できません)。当日使用するパソコンは主催者側が用意いたします。(PC 持ち込みの場合には事前にご連絡ください)
2. 大会主催者側で準備するコンピューターは、OS は Windows XP、プレゼンテーションソフトは Power Point (Ver.2003)とさせていただきます。また、動画ならびに音声の利用については対応できませんのでご注意ください。
3. ご発表のデータにつきましては、
演題番号 O-1～O-7 の発表は、11 月 6 日(土) 8:40～9:10 に
演題番号 O-8～O-13 の発表は、11 月 6 日(土) 10:00～10:30 に
発表受付にお持込ください。
Macintosh には対応しませんのでご注意ください。

【ポスター発表の発表形式】

1. 発表時間 4 分、質疑応答 2 分とします。
2. 高さ 180cm×横幅 90cm のボードを準備します。範囲内でのポスターをお作りください。左上隅には、演題番号(20cm×20cm)を事前に掲示します。
3. 画鋏は各自でご用意ください。
4. ポスターの掲示は、11 月 6 日(土) 8:30～9:30 の間にお願いします。
5. ポスターの撤去は、11 月 7 日(日) 11:30～12:30 の間にお願いします



特 別 講 演

特別講演 1 11月6日(土) 14:30～15:30

■座長 樋口 勝規／九州大学病院口腔総合診療科 教授

「抗血栓薬、勝手に止めると悔い残す！ —周術期の抗血栓薬管理はどうあるべきか？—」

矢 坂 正 弘 先生

(独立行政法人 国立病院機構 九州医療センター
脳血管神経内科・科長)

特別講演 2 11月7日(日) 9:00～10:00

■座長 俣木 志朗／東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
包括診療歯科学講座歯科医療行動科学分野 教授

「歯周治療を基軸とした総合治療の実践」

水 上 哲 也 先生

(医療法人水上歯科クリニック・院長
九州大学歯学部臨床教授
歯水会会員)

「抗血栓薬、勝手に止めると悔い残す！ —周術期の抗血栓薬管理はどうあるべきか？—」

矢 坂 正 弘

(独立行政法人 国立病院機構 九州医療センター 脳血管神経内科・科長)

抜歯をはじめとする医学的観血処置時に、抗血栓薬を中止するか否かの判断やそのタイミングはしばしば問題となる。休薬すれば血栓・塞栓性疾患のリスクは高くなる。一方、抗血栓薬継続下で処置を行えば、止血操作が困難になるかもしれない。最近の文献調査や前向き登録研究によれば、ワルファリンを一時中止した際の血栓・塞栓症の発症率は約1%で、発症例の多くは重症であることが明らかにされている (*Arch Intern Med* 1998;158:1610, *Neurology* 2003;61:964, *Arch Intern Med* 2008;168:68)。ワルファリン療法中に脳梗塞を発症した23例中、ワルファリン中止中に発症した8例(23%)を解析した結果、入院時のINRは低く(中央値1.20)、全例が心原性脳塞栓症を呈し、神経脱落症状は重く、退院時転帰不良例(mRS $\geq$ 3)が7割を占めていた(*Thromb Res* 2006;118:290)。ワルファリンの中止理由は半数で抜歯であった。ワルファリンの中止から再開までの日数は中央値4.5日、中止から脳梗塞発症までの日数は中央値7.5日であったことから、抜歯後ワルファリン療法を再開し、2-3日経過した時点で脳梗塞を発症しやすいものと思われる。脳梗塞患者が再発予防を目的に内服しているアスピリンを中止すると脳梗塞再発のオッズ比が3.4倍高くなるという(*Arch Neurol* 2005;62:1217)。海外ではワルファリンやアスピリン継続下での抜歯を安全に行えることが、複数のランダム化比較試験で明らかにされ、ガイドラインで勧められている (*Br Dent J.* 2007; 203:389)。本邦では多数の観察研究が行われており、INR3.0未満でのワルファリン療法や抗血小板薬療法継続下での抜歯が日本循環器学会のガイドライン等で支持されている (*Circ J* 72 (Suppl IV): 1581-1638, 2008 ; <http://www.j-circ.or.jp/guideline/index.htm>)。病態や手技に応じて抗血栓療法を中止せざるを得ない場合は、半減期の短いヘパリンで代替するbridging therapyの可否を検討する。ヘパリンで術直前および術直後の抗血栓療法を代替しても観血処置中にはヘパリンを投与できないことから完全に血栓・塞栓症のリスクを取り除くことはできない。したがって術前に十分な説明に基づく同意(informed consent)を得ておく必要がある。

「歯周治療を基軸とした総合治療の実践」

水 上 哲 也

(医療法人水上歯科クリニック・院長 九州大学歯学部臨床教授 歯水会会員)

インプラント治療の確立に伴い中等度、重度歯周病に対する治療計画は大きく変革してきた。

長期的な観点から予知性の乏しい歯牙を抜去し速やかにインプラントに置き換えることで骨レベルの重篤な喪失を防ぎ治療結果の長期的な *longevity* を確保することは重要である。特に年齢や生活背景を考慮したときある時点で見切りをつけた形でのインプラントの適応は一定の正当性を有する。

しかしながら必要以上に早期に見切りをつけてしまうインプラントの適応はその後のインプラントのリカバーや残存天然歯の喪失や悪化に伴う再治療を余儀なくされる。したがってインプラント治療の選択に際してはそのベネフィットを検討したうえでの適応が求められる。

一方でインプラント治療のみならず歯周治療、歯内治療、接着、審美修復そのさまざまな領域で格段の進歩が遂げられてきた。これらの治療はそれぞれを切り抜いて行われるのではなくあくまで総合的そして長期的な観点から適切に組み合わせられ、組み立てられて行われる必要がある。また成人の約80%以上が歯周炎に罹患している背景のもと種々の治療は歯周治療をベースに行わなければならない。そしてこの総合的な治療は基本治療からメンテナンスに到るまでの歯周治療の一連の流れ、組み立てのなかで行うことで全体の治療をスムーズにそして予知性を高めて行うことができると考えている。

以上を総合して今回の講演では中等度、重度歯周病患者での抜歯の判断、インプラントの有効活用、CTの有効活用、審美修復、そしてこれらを含め歯周基本治療からメンテナンスに到るまでの総合的な治療戦略とその実践について述べさせていただきたい。

一般演題

一般口演 6日(土) 9:40~12:15

セッション1(9:40~10:10)

座長:北海道医療大学 池田和博准教授

- O-1 支台歯形成における熟達者と非熟達者のバイオメカニクス的手法による解析
北医療 池田 和博、他
- O-2 歯種鑑別に関する事象関連電位による認知心理学的検討
日大松戸 海老原 智康、他
- O-3 岡山大学病院における歯科研修医を対象とした摂食・嚥下リハビリテーション研修プログラム
岡山 白井 肇、他

セッション2(10:15~10:55)

座長:北海道医療大学 池田和博准教授

- O-4 口臭治療におけるプロバイオティクスの有用性に関する臨床研究
福歯 岩元 知之、他
- O-5 難聴患者への歯科医療コミュニケーション支援の試み
大歯 辰巳 浩隆、他
- O-6 臨床研修歯科医の実態調査
明海 荻原 孝子、他
- O-7 松本歯科大学および松本歯科大学病院における一般歯科教育
松本 音琴 淳一、他

セッション3(11:10~11:40)

座長:日本大学松戸 多田充裕講師

- O-8 九州歯科大学総合診療学分野が関わるプロフェッショナリズム教育
九歯 木尾 哲朗、他
- O-9 九州歯科大学附属病院の再編成による初診患者医療面接教育について
九歯 永松 浩、他
- O-10 初診時医療面接の「振り返り」について
日大松戸 梶本 真澄、他

セッション4(11:45~12:15)

座長:昭和大学 丸岡靖史准教授

- O-11 当科における発足1年間の外来患者の臨床的検討
昭和 青山 慶太、他
- O-12 昭和大学歯科病院総合診療歯科におけるPOS基盤型診療システム
昭和 勝部 直人、他
- O-13 研修歯科医によるPOSを基盤とした総合診療計画の立案と臨床症例
昭和 池田 亜紀子、他

若手ポスター発表 6日(土) 15:50～17:20

セッション1(15:50～16:15)

座長:新潟大学 藤井規孝教授

P1-1 治療用義歯で咬合高径と水平的顎位の改善を図った症例

新潟 宮武 莉奈、他

P1-2 上顎全部床義歯作製の治療経験

新潟 西野 和臣、他

P1-3 総義歯製作における筋形成の重要性

新潟 登坂 祐介、他

P1-4 鉤歯を再補綴する際の診療手順

新潟 有田 圭、他

セッション2(16:15～16:35)

座長:日本大学 升谷滋行准教授

P1-5 エンド・ペリオ病変への取り組み

新潟 佐藤 友有子、他

P1-6 咬合力の強い患者に対する治療計画の立案

新潟 齋藤 大輔、他

P1-7 九州大学病院口腔総合診療科における研修歯科医が担当する新来患者の分析

九大 坂元 千織、他

セッション3(16:40～17:00)

座長:長崎大学 山辺芳久教授

P1-8 歯科治療でのコンプライアンスの悪い患者が行動変容した一症例

岡山 中務 真実、他

P1-9 歯科医療におけるNBMの実践ー包括的歯科治療の一症例ー

岡山 藤田 泰弘、他

P1-10 意図的再植によって歯根破折歯の保存を試みた一症例

岡山 塩津 範子、他

セッション4(17:00～17:20)

座長:大阪歯科大学 米谷裕之准教授

P1-11 歯科治療によりアレルギー症状が軽快した1例

大歯 山本 具美、他

P1-12 チェアサイド根管内嫌気性細菌培養検査を応用した根管治療

福歯 喜多 清大、他

P1-13 長期間悩まされた口腔異常感が口腔乾燥に対する処置により消失した症例

福歯 仲西 宏介、他

一般ポスター発表 7日(日) 10:20～11:35

セッション1(10:20～10:40)

座長:徳島大学 大石美佳講師

P2-1 除菌洗浄剤がアルジネート印象材の寸法精度に及ぼす影響

徳島 岡 謙次、他

P2-2 臨床研修歯科医が参加した学校歯科検診についてのアンケート調査

徳島 篠原 千尋、他

P2-3 院内感染対策の一環としての医療スタッフ鼻腔・口腔内メチシリン耐性ブドウ球菌
検査 ― 第2報 ―

広島 小原 勝、他

セッション2(10:40～11:05)

座長:岡山大学 白井 肇講師

P2-4 高分解能走査電子顕微鏡によるインプラント表面の観察

岡山 武田 宏明、他

P2-5 研修歯科医の考える理想の歯科医師像

岡山 河野 隆幸、他

P2-6 鹿児島大学医学部・歯学部附属病院歯科医師臨床研修における基礎研修について
のアンケート調査

鹿児島 松本 祐子、他

P2-7 研修歯科医が設定した目標とその変化

九歯 藤井 直子、他

セッション3(11:10～11:35)

座長:日本歯科大学新潟 佐藤友則准教授

P2-8 当院インプラントセンターにおける Camlog インプラント症例の臨床的検討

日歯新潟 中村 雅裕、他

P2-9 過去3年間ににおける臨床研修歯科医師ケースプレゼンテーション

日歯新潟 野田 つかさ、他

P2-10 地域医療研修における Significant Event Analysis (SEA)を用いた振り返りの検討

日大 関 啓介、他

P2-11 POS における問題点抽出時の患者観察ビデオの応用

昭和 伊佐津 克彦、他